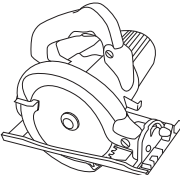
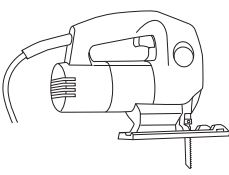
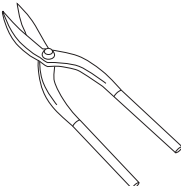


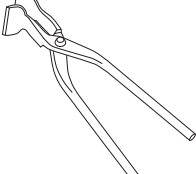
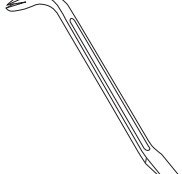
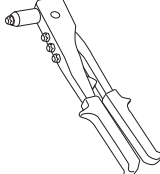
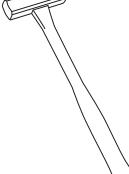
4 施工に必要な工具と材料

1. 施工に必要な工具

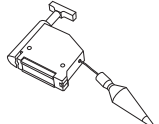
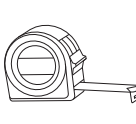
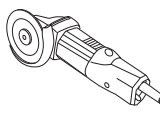
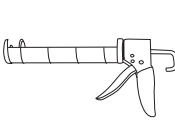
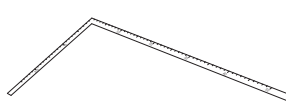
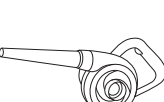
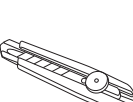
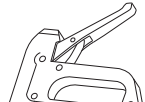
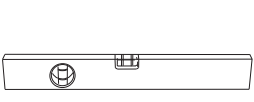
1) 切断に使用する工具

電動丸のこ	ジグソー	金ばさみ
		

2) 取り付けに使用する工具

インパクトドライバー	つかみ	釘しめ	釘抜き	リベッター	ハンマー/プラスチックハンマー
					

3) その他の工具

墨つぼ	下げ振り	水系	スケール	サンダー	はけ	シーリングガン
						
矩尺	ブロワー	保護メガネ	カッター	タッカー	水平器	
						

4

施工に必要な
工具と材料

2. 施工に必要な材料

- ・留め具（既存窯業系サイディングに胴縁を取り付ける場合）

胴縁材の取り付け用 ねじ：長さ75mm以上

本体、部材の取り付け用

木ねじ：長さ＝胴縁の厚さ 太さ＝3.1mm以上

頭形＝丸ねじ、シンワッシャー型推奨（ねじ抜け防止のため）

ラッパ頭、皿頭形状のねじを使用する場合は締めすぎ厳禁です。

ねじを締めすぎて空回りようになったときは近くの別の場所に打ち直してください。

- ・バックアップ材 ・マスキングテープ



- ・推奨シーリング材

純正のアイジーシーリング「エコシーリング」以外に、下記シーリングが使用できます。

ただし、SF-ガルステージシャインのFクールホワイトは、純正の「エコシーリング」をご使用ください。

メーカー名	商品名	備考
サンスター技研株式会社	ペンギンシール2550HM	1成分形、変成シリコン系
コニシ株式会社	ボンド 変成シリコンコーク	1成分形、変成シリコン系
	ボンド マルチコーク	1成分形、変成シリコン系

- ・環境の厳しい地域では、シーリング材の接着強度を上げるため、各メーカー推奨のプライマーをご使用ください。

5 施工前の確認事項

①既存建物の確認

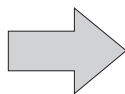
事前に既存建物の構造や下地の状態について劣化状況などを確認してください。

●適用条件

- ・昭和56年の建築基準法 新耐震基準に適合する木造建築物
- ・昭和56年5月31日以前の着工で、適切な耐震補強を行う木造建築物

●主な劣化診断項目

- ・建物の傾きがないかどうか
- ・雨漏れ箇所がないかどうか
- ・基礎に亀裂や破損箇所はないかどうか
- ・基礎からの浮いた箇所がないか
- ・外壁面に顕著な反り、波打ちがないかどうか
- ・外壁面にクラック、破損がないかどうか
- ・シーリングが切れている箇所がないかどうか



診断の結果、不具合がある場合は、専門家による調査、診断を踏まえて適切な処理を行ってください。

●既存躯体の保持力を診断

- ・既存躯体に新しい下地材（胴縁）を留め付けるための必要な保持力があるかを確認してください。

●確認の方法

1) 測定器

- ・既存躯体の保持力確認試験は、引張荷重測定器を使用します。

2) 使用する留め具

- ・試験に使用するねじは改修に使用する胴縁固定用ねじを使用します。コーススレッドまたはねじなど、L=75mm以上を使用してください。

3) 診断位置

- ・1建物につき3か所以上実施し、適切な判断を行ってください。以下の部位について行います。

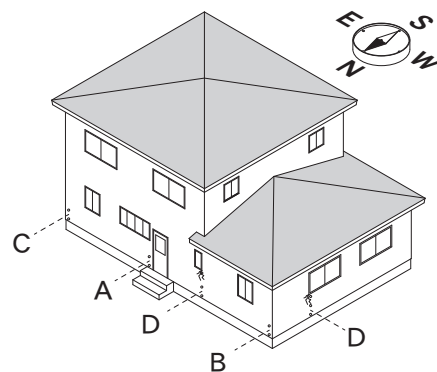
- A. 北側水回り付近
- B. 北西部出隅
- C. 北東部出隅
- D. クラックやシーリング切れなどにより、雨水の浸入が考えられる部位

4) 試験方法

- ・引張荷重測定器の操作の詳細は、取扱説明書を参照してください。
- ・既存外壁に、胴縁を留め付けるねじ径より大きな先穴をあけてください。
- ・既存躯体に、ねじ頭を下地胴縁の厚さ分の空間を設けてねじを固定し、引張荷重を測定してください。
- ・試験後のねじ穴は、シーリング材などで補修をしてください。

●合否の判定

- ・既存躯体の保持力確認試験の合格値は、ねじの引張強度が1,000N以上とします。

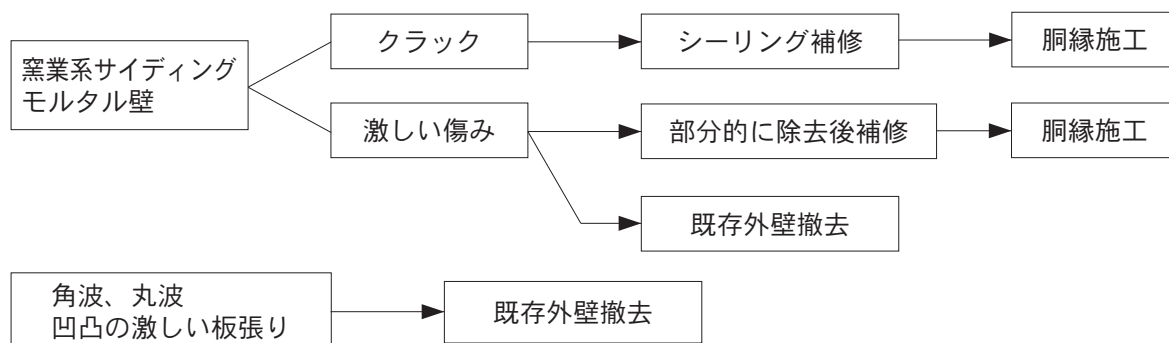


引張荷重測定器（例）
サンコーテクノ株式会社
テクノテスターKT-6



②既存外壁材の確認

既存の外壁材の種類・状態を確認し、工法（重ね張り改修・既存外壁を撤去しての改修）を決めます。重ね張り改修の際、既存外壁が防水上不安な場合は事前に適切な補修を行ってください。また、既存外壁の劣化がひどい場合や凹凸が大きい場合は、既存外壁の撤去を検討してください。

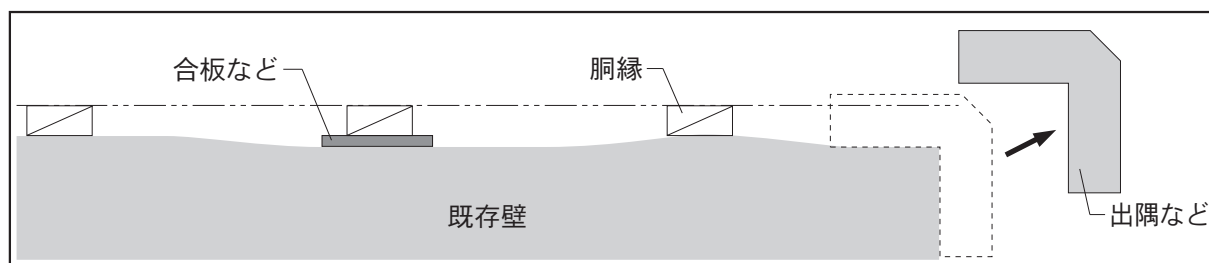


既存の窯業系サイディングなどの解体、破碎などを行う場合は、石綿障害予防規則に従って作業を行ってください。

なお、関連法規や工事の届け出、廃棄物の処理方法などについて不明な場合は、所轄する労働基準監督署や自治体の担当窓口へ相談してください。

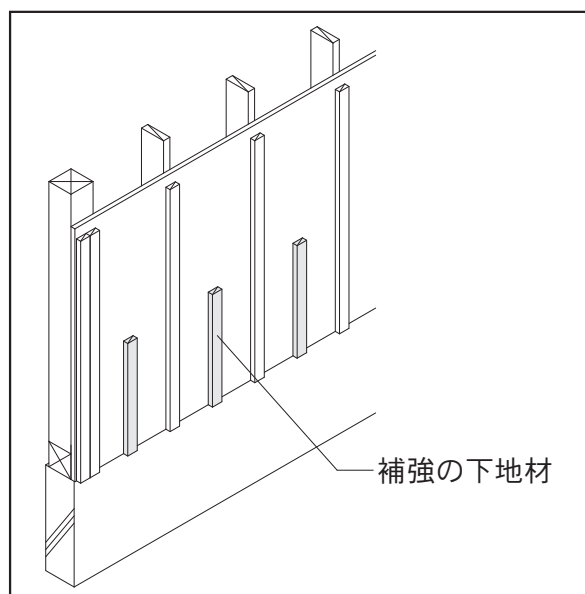
③既存壁の不陸の確認

既存壁の不陸は、仕上がり大きく影響します。必要に応じて下地材（胴縁）取り付けの際に調整してください。特に、既存壁が窯業系サイディングの場合は出隅などの部材が壁面より出ている場合があります。その際は、部材を撤去するか下地材で調整してください。



④地域性の調査

寒冷地域では、積雪量を考慮し下地材を補強してください。

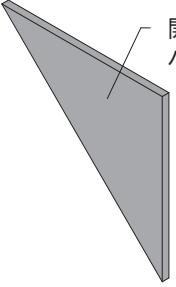
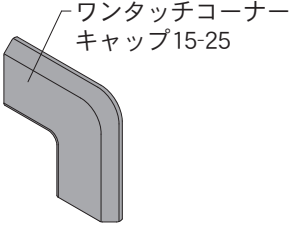
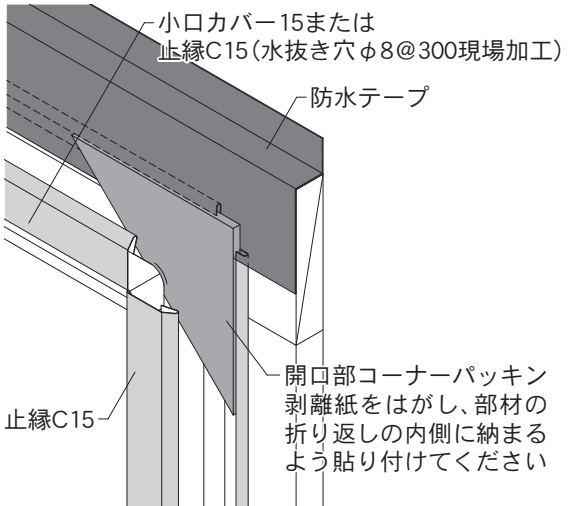
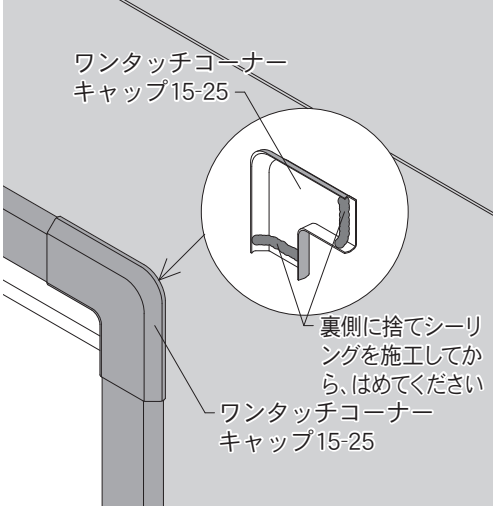
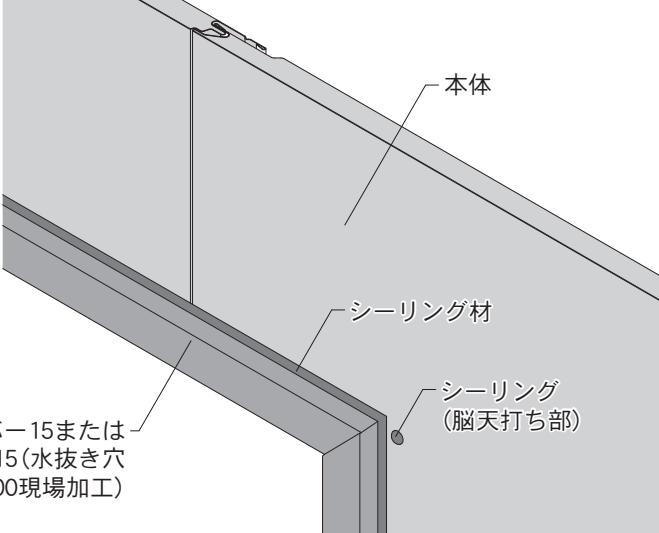


5 施工前の確認事項

⑤ 施工法の選択

●改修用シーリング軽減工法と改修工法の適用条件

・ 施工する部材や施工法、対象商品が異なりますので、各適用条件をご確認ください。

改修用 シーリング 軽減工法	●開口部の適用条件 ・ 隅角部では、ワンタッチコーナーキャップ15-25Sと開口部コーナーパッキン、捨てシーリングの施工が適用条件です。開口部の隅角部(4箇所)すべてに開口部コーナーパッキンを施工してください。  開口部コーナーパッキン  ワンタッチコーナーキャップ15-25  小口カバー15または止縁C15(水抜き穴φ8@300現場加工) 防水テープ 止縁C15 開口部コーナーパッキン剥離紙をはがし、部材の折り返しの内側に納まるよう貼り付けてください  ワンタッチコーナーキャップ15-25 裏側に捨てシーリングを施工してから、はめてください ワンタッチコーナーキャップ15-25
改修工法	●開口部の適用外条件 隅角部で部材加工で施工する場合は、改修工法で施工してください。  本体 シーリング材 シーリング(脳天打ち部) 小口カバー15または止縁C15(水抜き穴φ5@300現場加工)

●既存壁とサッシの確認

- ・既存壁表面からのサッシの出幅により、施工できる部材が異なります。
部材がサッシより出の場合は、止縁C15を施工ください。施工する前に、下の図を参考に既存壁とサッシの出幅を確認してください。

図		
施工 部材	小口カバー 15 止縁 C15・アングル (20×40)	小口カバー 15 (止縁C15) 止縁C15・捨板 (15×85) 小口カバー 15 (止縁C15) 止縁キャップC15・止縁捨板・捨板 (15×85)

※：既存壁に留める胴縁の厚さが18mmの場合

●工法による商品の選定について

シーリング軽減工法の対象商品は、次の表の通りです。
一部の商品は、張り方向により対象外になります。

○：施工対象商品

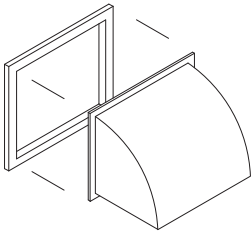
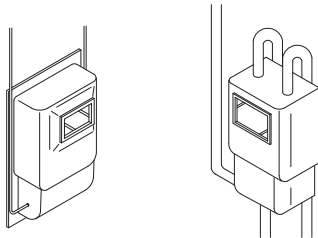
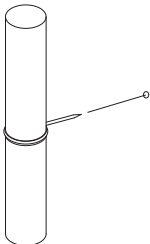
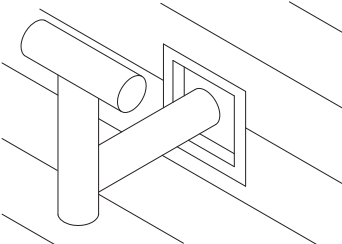
商品名	張り方向	
	たて張り	よこ張り
SP-ガルボウ	改修工法のみ	
SP-ビレクト		○
SP-ガルブライト	○	○
SP-ガルspan	○	改修工法のみ
SP-スリムspan※	○	
SF-ガルステージシャイン	○	○
NFI-フィネストーンⅡ		○
NFI-グラブロッシュ		○
NPT-スプリームウッド	○	○
NPT-ヴァリオスブリック		○
NPT-モンターニュ		○
NP-テセルブリックⅡ	○	○
NP-シャドーライン	○	○
NP-ファブリックライン	○	○
銘壁	改修工法のみ	
伸壁Ⅱ	○	○

※SP-スリムspanは、スリム止縁とスリム出隅キャップは対象外です。その他部材（止縁C15、3M/4M出隅キャップ15-25等）で施工してください。

5 施工前の確認事項

⑥壁に取り付いている突起物の確認

壁に取り付いている突起物は、取り付け・取り外しが容易で脱着後の機能に支障がない場合はできるだけ取り外して施工してください。各種配管・配線の移設や取り外しなどが必要な場合は各専門業者に依頼してください。

A. 換気扇カバー  施工前に取り外し、施工完了後に取り付けてください。	B. 電気メーター・配管類(水道管、ガス管など)  取り外す場合は各専門業者に依頼してください。
C. 雨樋  施工前に取り外し、施工完了後に取り付けてください。	D. 風呂釜・煙突など  高温になるおそれのある箇所は、高温部から間隔をとって施工します。

⑦特殊な納まりが必要な箇所の確認

サイディングは原則的に曲面には施工できません。アーチやアールになっているところは、事前に施主様に説明し塗装鋼板の板金加工や再塗装などで対応してください。

⑧施工現場のスペース確認

新築現場と違い改修現場では、狭い敷地での工事になる場合があります。工事に際して施主様・近隣居住の方々へ迷惑をかけないように、仮設足場・資材置き場・加工場所・資材運搬経路・駐車場所など事前に段取りしてください。

⑨壁の実測・工事範囲の確認

既存壁は経年変化によって、水平線や直線性がでていない場合がありますので、材料の拾い出しは実測を基に行ってください。また、工事の範囲を事前に施主様と打ち合わせすることによって、引渡し時のトラブルが無いようにしてください。